

平成29年度 取組結果



目的

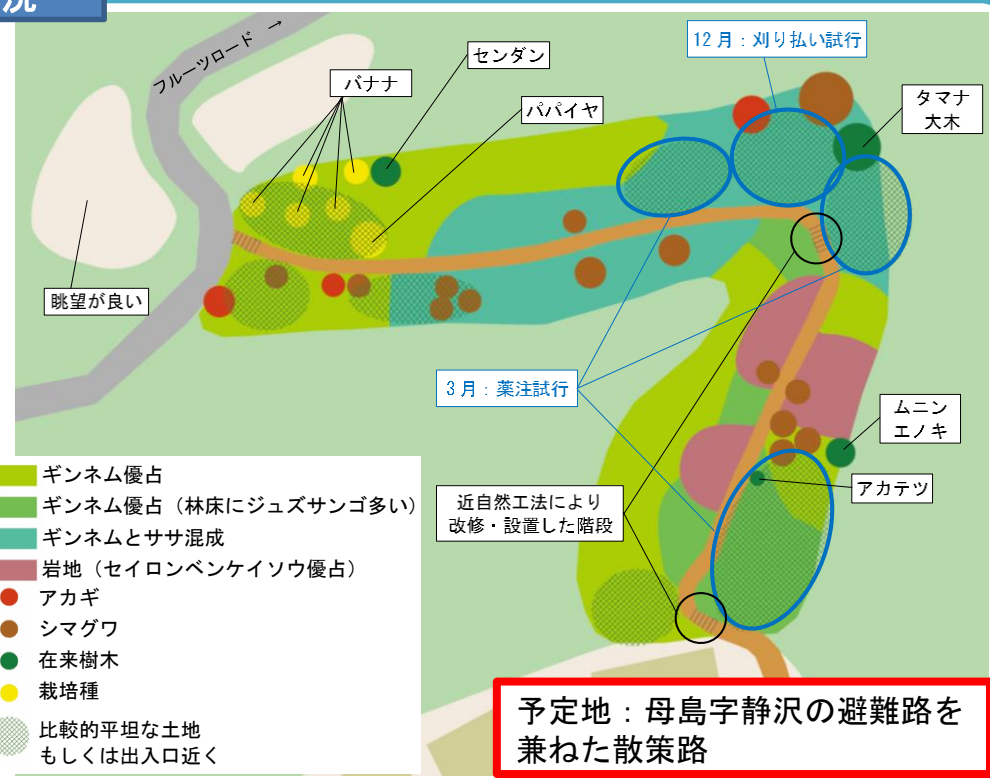
- ◆村は、「人と自然の共生する村づくり」を村政の基本理念に掲げ、返還50周年を迎える。
- ◆母島には湿性高木林の中に希少な動植物が生息しているが、遺産地域の森林は厳正に保全が図られているため、村民や来島者が母島らしい植物を身近に見られる場を創出する。
- ◆林木育種センター等の関係機関、島内協力者との連携により希少種の保護にも貢献する。

プロジェクト準備状況

◆平成29年12月～アドバイザーとして東京農業大・田中信用教授(科学委員)を招聘し、植栽箇所や樹種、作業の進め方の検討を開始



◆平成30年1月～林木育種センターからオガグワ苗が順次到着し、島内協力者による順化を開始



- ギンネム優占
- ギンネム優占 (林床にジュズサンゴ多い)
- ギンネムとササ混成
- 岩地 (セイロンベンケイソウ優占)
- アカギ
- シマグワ
- 在来樹木
- 栽培種
- 比較的平坦な土地もしくは出入口近く

村民参加の取組

◆平成30年1月21日 : 道づくり体験会



◆平成30年3月6日 : 田中教授来島
・関係者による予定地の地拵え
・講演会「母島の植物ハハジマの森づくり」

平成30年度の予定

- ◆4月～: ルート沿いの外来樹木駆除、地拵え、樹種検討
- ◆11月: 返還50周年を記念して第1回植栽イベントを実施

今後の課題

- ◆将来像(植生、利活用)の検討と共有
- ◆継続的な維持管理体制の構築

平成30年度 取組結果

目的

- ◆ 返還50周年を契機として村民や来島者が母島らしい植物を身近に見られる場と機会の創出
- ◆ 林木育種センター、島内協力者等との連携により希少種の保護にも貢献

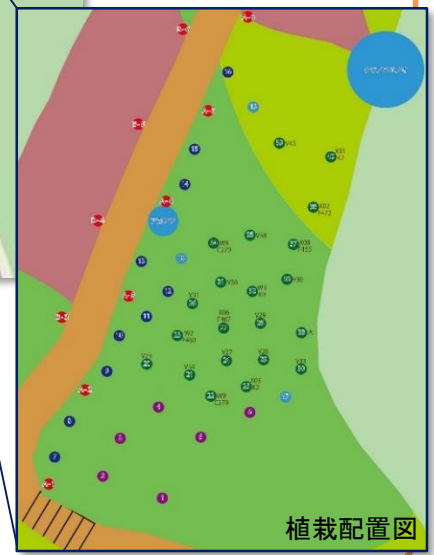
これまでの経緯

- ◆ 平成29、30年度
 - ・東京農業大・田中信行教授をアドバイザーとして招聘
 - ・植栽箇所や樹種、作業の進め方の検討を開始
 - ・シマグワ・アカギ大径木の伐採
 - ・講演会や道づくりイベントを開催
- ◆ 平成30、31年の1～3月
 - ・林木育種センターからオガサワラグワのクローン苗が到着し、島内協力者が順化・育成

進捗状況



母島の森
母島の静沢集落北側のギンネムが繁茂する避難路を兼ねた散策路沿い



実施日	参加村民 (スタッフ)	内容
H30.5.12	7名 (5名)	ギンネム伐採
H30.8.25	4名 (5名)	地図づくり
H30.11.11	23名 (7名)	在来種の植樹
H31.3.21	(実施予定)	維持管理

今後の課題

- ◆ 将来像(植生、利活用)の検討と共有
- ◆ 継続的な維持管理体制